

新教出版社 新刊案内 2025 年 2 月 14 日発売

戦後日本とキリスト教

敗戦の混乱期から社会制度の確立期まで

〔編〕 富坂キリスト教センター

四六判・並製・230 頁・本体 2000 円（税込定価 2200 円）

ISBN 978-4-400-21343-7 C1016

そのときキリスト教界は——
「戦後 80 年」の原点を問う。

敗戦後の急激な社会変革に対して、キリスト教界はどのように対応したのだろうか。

占領期の宗教政策、キリスト教ブーム、共産党問題、在日コリアン教会、沖縄の土地闘争、キリスト教女子教育などの切り口から見えてくるものは何か。

戦後日本を形作り、今日にまで至るもろもろの制度が確立する頃のキリスト教界の姿を通して、「戦後 80 年」の意味と今後のキリスト教を考える上で、貴重な示唆に富む共同研究。

【目次より】

第一章 〈精神〉と〈物量〉

——戦後占領期の宗教政策をめぐって

大久保正植

第二章

戦後「キリスト教ブーム」に関する一試論

——その実態に関する一考察

落合建仁

第三章

キリスト教と共産主義は水と油か

——赤岩栄による共産党入党決意表明への反応の考察

寒河江健

第四章

戦後在日コリアンとキリスト教界

——一九四五年から一九六〇年までを中心に

李相勲

第五章

剣を取るものは剣で滅びる——伊江島土地闘争と

「沖縄キリスト教会」の交流

福山裕紀子

第六章

キリスト教学校と選択

——「女性の教育」を手がかりに

渡邊さゆり

第七章

敗戦直後の地方のキリスト教

——長崎の場合

原誠

特別講演

戦後の賀川豊彦という難問

戒能信生